厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
総合研究報告書

高次脳機能障害者の社会的行動障害による社会参加困難への対応に関する研究

研究分担者：滋賀県立障害者総合診療所　島田　司巳

研究要旨

高次脳機能障害において、社会的行動障害は社会生活を送る上での阻害因子となりやすい。また、社会的行動障害が顕著にあらわれている事例の実態は未だ把握されていない状況にあると言える。そのため、引き続き滋賀県下に於ける高次脳機能障害事例を選出し、実態を整理し社会的行動障害の対応マニュアルの作成について検討した。

小児高次脳機能障害についても、滋賀県高次脳機能障害支援センターの相談件数は年に数件と少ないが潜在的には多くの件数があると推察される。しかし、その実態は把握できていない。そのため、滋賀県内の教育機関に向けて実態把握の調査を実施し、学校における高次脳機能障害児の把握状況や必要な支援についての情報を得て今後の小児の支援を検討する。

A．研究目的

社会的行動障害が顕著にあらわれている事例を通して、実態の把握、対応方法について検討する。

また、滋賀県内の教育機関に向けて実態把握の調査を実施し、学校における高次脳機能障害児の把握状況や必要な支援についての情報を得て、今後の小児の支援の基礎資料とする。

B．研究方法

前年度に引き続き滋賀県立むれやま荘の利用者事例、滋賀県高次脳機能障害支援センター相談事例、及び滋賀県立総合病院で診療された事例を選び、NPI、支援ニーズ票を支援者もしくは家族に実施する。さらに選出された事例から障害の状態を分析し、社会的行動障害への対応を検討した。

小児高次脳機能障害の実態把握のため滋賀県内小学校 223 ヶ所・中学校 106 ヶ所・特別支援学校 16 ヶ所（公立・私立）へ調査票を配布した。

C．研究結果

社会的行動障害が顕著に現れている事例を分析するとともに対応方法を検討し、支援マニュアルへの意見を提出した。

教育機関への調査の回収率は 57.4%であった。高次脳機能障害という言葉を聞いたことがあるかという問いに対しては､「聞いたことがあり、よく知っている」との回答は 26.4%、「聞いたことはあるが、詳細は知らない」が 60.7%､「聞いたことがない」が 12.4%であった。現在、高次脳機能障害の診断がある児童・生徒が在籍しているかという問いに対しては「いる」が 2%、「いない」が 98%であった。高次脳機能障害の疑いのある児童・生徒については「いる」が 4%、「いない」が 95%、「無回答」が 1%であった。また、高次脳機能障害児の支援に際し、困っていることとして「学習の進め方」が 27.6%、「社会的行動障害への対

応」が 24.1%であった。また、支援の中で知りたいこととして「学習の進め方」が 61.3%、「社会的行動障害への対応」が 57.5%であった。さらに、不足していることとして「教職員の障害についての理解」が 43%、「社会的行動障害への対応」が 35.2%、「高次脳機能障害の支援について相談できる機関」が 34.5%であった。

D．考察とE．結論

社会的行動障害への対応については、現れている症状から判断するのではなく、「主に前頭葉損傷に伴って社会的行動が直接障害されている場合」、「記憶や注意などの認知機能の低下から二次的に生じている場合」、「社会心理的因子が複雑に関係している場合」といった状態像をアセスメントし、状態像に合わせた対応が必要であることが検討された。このようなアセスメントに基づき環境調整や社会資源の利用を検討することが必要であると考えられる。研究で把握された状況を鑑み、まずは高次脳機能障害支援コーディネーターが社会的行動障害の症状、アセスメントの仕方、対応方法について理解することで、当事者・家族、地域支援者へ対応方法や支援を広めていくことが重要であると考えられる。

滋賀県内教育機関への調査からは、高次脳機能障害を知っているとの回答が約 8 割であったが、現在、診断を受けている児童・生徒が在籍していると回答した機関は 2%と在籍している児童・生徒は少ないことが示された。

支援について悩んでいることや知りたいことは学習の進め方や社会的行動障害への対応が上位であった。他方、不足していることについては教職員の障害への理解や社会的行動障害への対応が上位と異なり、高次脳機能障害の知識や理解を広めることがまず必要であることが考えられた。また、社会的行動障害への対応は高次脳機能障害児の支援においても重要度が高く、小児の高次脳機能障害の支援においても対策が必要であると言える。

F．健康危険情報

特記なし

G．研究発表

1．　論文発表

田邉陽子「高次脳機能障害者への ICF の概念を元にした生活訓練の提案」滋賀社会福祉研究　第 21 号

2．　学会発表

（発表誌名巻号・頁・発行年等も記入）

川上寿一、小西川梨紗、田邉陽子、三田村麻奈「高次脳機能障害に関わる多機関から構成したチームによる支援」第42回日本高次脳機能障害学会学術総会、2018年12月7日

H．知的財産権の出願・取得状況

特記なし